

## (121) 栃木県塩原市の第1塩原鉱山

第3塩原鉱山を確認することができた。では第1塩原鉱山は？ 参考文献(1)には、第3塩原鉱山と同程度の分量で、台1塩原鉱山についても解説されている。が、鉱山の位置が添付されている図幅中では、ツル沢の所にマーキングされている。説明書では「・・・赤沢ノ谷に臨み海拔約500mである。・・・」の記述があり、全く話が合わない。その上、赤沢ノ谷の箒川との出会いの海拔が海拔560mなので、これも話が合わない。文献(1)の内容を、鵜呑みにしてはいけない。注意!!!

参考文献(2)にも、第1塩原鉱山の記述がある。これには「・・・中塩原赤沢谷にあり、中塩原の東北1.5kmに位置する。・・・」と紹介されている。

中塩原の赤沢には、栃木県の名瀑の一つとされている「洗心滝」があることがわかった。ネットでこの洗心滝について調べると、重要な情報を得ることができた。洗心滝の上流に、山道が残っており、かつ何カ所かに石垣組みがあるということ。ネットでの公開者は滝に興味を持っていたので、鉱山跡には全く気を向けていなかったようであるが、著者は、山道はかつての鉱山道であり、石垣組は、そのためのものか、施設敷地のものであると推断した。又、岩友も貴重な情報を仕入れてくれた。赤沢の上流の二俣付近に坑口があったとの情報である。

数度の探査の結果、ようやく第1塩原鉱山跡を確認することができた。赤沢の上流、標高約800mの右岸に、鉱山施設跡と思われる多段の広いプラト一面と坑口跡一つがあった。探査なのでいろいろな経路で赤沢を歩き回った。最終的に、鉱山跡へのお勧めの経路は、以下の通りである。

図1、図2を参照。箒川と赤沢との出会い1から出発する。車は？ 赤沢の出会いの所に、ホテル赤沢温泉がある。400号を西に進んできたら、中塩原で、箒川を渡り、直ぐに右折して、箒川の左岸に沿って、狭い村道を進んでいくと、この赤沢温泉の敷地に突き当たる。先に道は無い。1台、2台ならば、途中の村道脇に駐車はできよう。多数台の場合には、帰りに温泉に入ることにして、ホテルに駐車をお願いしたら良いであろう。或いは、対岸に市役所の駐車場が見える。そこに止めるのも良いであろう。

出会いを少し遡ると、砂防ダムがある。この右側から林道に入っていける。1→2→3と林道を進んでも良いが、黒破線で示したショートカットもよろしいのではないだろうか。杉林の中である。歩きやすい。あとは、3を経て、道標に出会う。山道を進み、そのうちに沢に出る。出会いから、鉱山跡まで1時間半程か。帰路にでも、洗心滝を見ることを勧める。が、道標から結構下ることになる。

プレイパークには自由駐車場がある。また、赤沢の出会いより100m標高が高い。従って、図1中に示しているが、4→5→6→赤沢へのルートもある。洗心滝に興味が無ければ、このルートは捨てきれない。但し、途中から道は無いので、本経路ログとガーミンなどを案内とすべきである。

文献によれば、坑口は幾つかあった。確認できたのは1つである。現地を確認できたので、次回では十分に余裕を持って付近の探査ができよう。文献によれば、鉱石は主として方鉛鉱、閃亜鉛鉱、硫化鉄鉱からなり、「3号」との記述があるので、坑口は少なくとも3つはあったと思われる。

探査日 2016年12月23日、その他

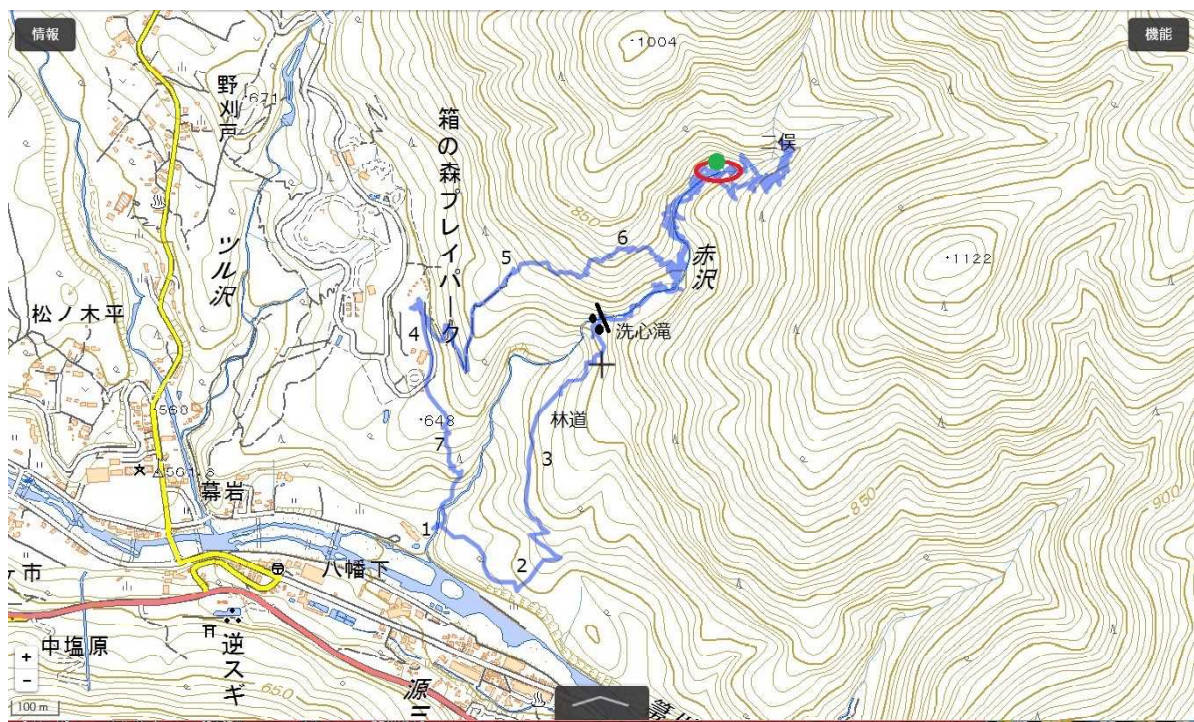


図1 中塩原、赤沢付近の地形図。最終探査時の経路を水色の曲線で示している。プレイパーク



の駐車場発。4→5は林道（現在、ハイキング道の一部）。5より少し先まで、道かもしれないものはあるが、その先には道の痕跡はない。尾根である6付近から、斜面を沢に向かって斜めに下る。赤沢に立つと、予想以上に沢は広く、傾斜も緩く、歩きやすい沢であった。鉾山跡を示している赤丸まで、滝もなく、簡単に遡ることができた。黄緑丸が坑口跡。



図2 図1を少し拡大した地形図。今回ガーミンの受信状況が、沢筋では余り芳しくはなかった。ズレが大きい。特に鉾山跡付近から二俣までにおけるズレが大きい。実際には、二俣の所までは沢を遡ったのであるが、経路ログでは、斜面を歩いたように記録されてしまっている。ガーミンの谷底での受信不良と判断した。パークの駐車場から、4→5→6と進み、6当たりから、斜面を下り初め、沢に降り立った。復路は、山道→洗心滝→道標→林道→3→2→1→7→4と経由し、駐車場に戻った。道標からの下りの時、林道の山側斜面に、巨大で垂直な1枚岸壁があった。余りにも大きいのでカメラの視野内に納まらないと思って、写真を撮らなかった。残念。

## 鉾山跡写真



写真1 鉾山跡。下流から上流を見ている。沢の右岸に幾つもの石垣、プラト一面があった。結構広い鉾山施設跡である。





写真2 中央の黒い部分が坑口。広いプラト一面の山側にあった。付近はズリらしいが、余り良い標本は採集できなかった。かろうじて黄鉄鉱粒に富んだ小さい標本を1個採集できた。後掲の標本写真を参照。じっくり探せば、期待は大である。



写真3 坑口に近づいての一葉。半分近くまで水没していた。が、坑道はしっかりしていた。スコップなどで、足下の土砂を切れば、排水ができそうであるが、1人、2人では大変そう。



写真4 鉱山跡から更に上流に進んだ。この所で赤沢は2つに分流している。二俣の所にあった落差4m～5mのおとなしい滝。岩友はメジャー代わり。今回の探査はここまで。



写真5 帰還のため、沢を下っていくと、左岸上部に、落ち葉で覆われている「山道」が視認できた。これ以降この山道に従って下った。右下の白い部分は沢水。この付近から下流で、沢は急に狭くなっている。この少し下流に、洗心滝がある。





写真6 山道から見下した洗心滝。中央の白い部分。洗心滝から二俣までの赤沢は結構沢幅は広く、傾斜も緩い。滝もない。従って、快適な沢登りが楽しめる。逆に、洗心滝より下流は沢は狭く険しそうである。



写真7 更に、下ってきた山道脇にあった道標。下り道の方から、登り方向を向いて撮影している。「右 山道」、「左 洗心滝」の記銘がある。右側の山道を下ってきた。左側の道は洗心滝に続く。



写真8 下りの最終地点である。付近に赤沢温泉がある箒川と赤沢の出会いより、赤沢の上流を見るここから少し上流に最初の砂防ダムがある。次の写真参照。

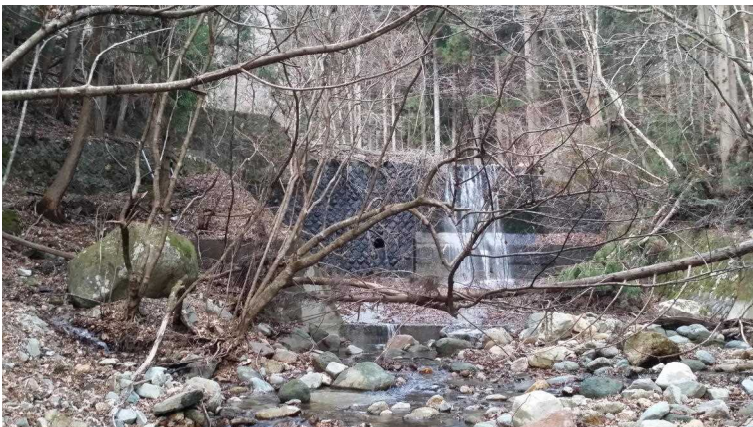


写真9 赤沢の最初の砂防ダム。この右側から林道に入っていける。この沢を遡って、洗心滝を経ても鉾山跡にはたどり着けようが、著者は確認はしていない。

## 採集鉍物写真



写真 1 0 鉍山跡で採集した、黄鉄鉍単結晶微粒に富んだ標本。

### 参考文献

- (1)「塩原図幅地質説明書」、通産省技官 岩生周一、今井均、昭和30年。
- (2)「日本地方鉍床誌 関東地方」今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。